

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24242010

研究課題名(和文) 室町～江戸期における写本と版本の関係についての総合的研究

研究課題名(英文) Relationships between Manuscripts and Woodblock-printed Books in Early-modern Japan

研究代表者

石川 透 (ISHIKAWA, TORU)

慶應義塾大学・文学部(三田)・教授

研究者番号：30211725

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 38,100,000円

研究成果の概要(和文)：室町時代から江戸時代に作成された、写本と版本については、これまでばくぜん、室町時代までの写本の文化が、江戸時代の版本の文化へと置き換わっていったと、考えられていた。しかし、江戸時代前期に作成された奈良絵本・絵巻を見るだけでも、明らかに版本から写本へ作られたものが、相当数存在している。そして、写本と版本の両方を作る人物として、仮名草子作家として著名な浅井了意や、日本史上初の女性絵本作家というべき居初つな等が存在することが明らかになってきたのである。本研究では、これまで、中世文学と近世文学の研究として別々に扱われていた写本と版本の関係を、新しい資料を利用しての解明を試みた。

研究成果の概要(英文)：About the Relationships between Manuscripts and Woodblock-printed Books in Early-modern Japan, We thought that Woodblock-printed Books were made from Manuscripts. But, Nara picture books and picture scrolls made from Woodblock-printed Books in the early Edo Period. If we consider about Asai-Ryoi, who is a famous writer in the early Edo Period, and Isome-Tsuna, who is a woman writer and painter, this research will prove the Relationships between Manuscripts and Woodblock-printed Books.

研究分野：国文学

キーワード：写本 版本 室町～江戸期 奈良絵本 絵巻

## 1. 研究開始当初の背景

室町時代から江戸時代に作成された、写本と版本については、これまでばくぜんと、室町時代までの写本の文化が、江戸時代の版本の文化へと置き換わっていったと、考えられていた。しかし、江戸時代前期に作成された奈良絵本・絵巻を見るだけでも、明らかに版本から写本へ作られたものが、相当数存在している。そして、写本と版本の両方を作る人物として、仮名草子作家として著名な浅井了意や、日本史上初の女性絵本作家というべき居初つな等が存在することが明らかになってきたのである。

## 2. 研究の目的

本研究では、これまで、中世文学と近世文学の研究として別々に扱われていたために明らかにできなかった写本と版本の関係を、新しい資料を利用し、具体的に考察することによって明らかにし、文学作品の創作の問題へと迫りたいと考えている。

これまでの国文学の研究は、中世文学研究者が写本を扱い、近世文学研究者が版本を扱い、それぞれの専門対象について考察してきた。現代の研究の専門化・細分化は、これに拍車をかけることになり、関わることであるのに、存在すら知らないといったことが多くなってきている。

例えば、浅井了意は、江戸時代前期に活躍した仮名草子作家として、誰もが知る存在であるが、文学作品としては、全て版本として作られたと考えられたために、誰も、その筆写本の存在は、気付いていなかった。しかし、二〇〇一年に、本研究代表者が、浅井了意筆の奈良絵本・絵巻の存在を報告し、同時に署名入りの写本の存在を示したことにより、不明であった人物像がかなりわかってきたのである。この報告をした時に、近世文学研究者からは、このような問

題は、写本を扱う中世文学研究者にしかわからないと言われたが、これこそ、研究の細分化の弊害の例といえよう。その後、科研費の使用により、浅井了意の研究はさらに進み、浅井了意が内容を創作したと思われる御伽草子も、複数指摘できるようになった。

浅井了意が室町時代の文学作品である御伽草子を創作したというもおかしな話である。実は、写本系の奈良絵本・絵巻は、中世文学に属するという誤解が根深く存在し、写本としてしか存在しない作品は、御伽草子に入れられていたのである。しかし、特に江戸時代前期は、写本と版本の両者が同じように作られ、その差は、用途の差と考えた方がよい。浅井了意は、まさにその両者を作成していた人物であったのである。基本的には、若い頃に本を写す、写本を作る仕事をし、その知識を元に、内容を創作する作家へと成り上がったのである。ただし、作家となったからといって、版本だけを作っていたのではない。作品を創作して、自ら写本の一つである奈良絵本・絵巻に仕上げた作品も存在した。しかし、現代の研究では、写本しか存在しないということで、御伽草子に属することになってしまっていたのである。

これをどのように明らかにしていくかということ、研究として確実なのは、浅井了意の筆跡の作品を特定していくことである。特に、本文の筆跡については、個性が強ければ強いほど、その筆跡の断定ができる。幸いなことに、浅井了意の筆跡には個性があり、筆跡の断定ができるのである。もちろん、筆跡だけではなく、その作品の内容や状況を考察しながら、一点一点の作品を見る必要がある。その一点一点の作品が、この十年間の研究を踏まえると、まだまだ、存在しているのである。特に海外には、奈良絵本・絵巻等の資料が相当に埋もれてい

る。もちろん、国内の資料も探す必要があり、それらの新資料の発掘と同時に、新たな作品の位置付けや人物像のとらえ直しを行うのである。

浅井了意は、寛文・延宝年間前後に活躍した人物であるが、一世代後の貞享・元禄年間には、居初つなという女性が、やはり、奈良絵本・絵巻を中心とする研究から浮かび上がってきた。居初つなは、往来物研究においては知られていた人物で、既に五、六作品の往来物を作成したとの研究は存在し、女流往来物作家のさきがけとして知られていたのである。しかし、二〇〇八年に、やはり、科研費等の公的資金による研究がきっかけで、居初つなが制作した大量の奈良絵本・絵巻の存在が明らかになり、その挿絵もきわめて個性的なかわいらしい絵を描いていたことが判明し、日本初の女流絵本作家と言って良い存在であることが明らかになった。と同時に、これまで窪田つなと呼ばれてきた女性と同一人物であることが筆跡や居住地から明らかになり、窪田作『女今川』も、居初つなの作品であることが判明した。『女今川』は、江戸時代を通じて、大量に制作された女性向けの教科書である。後代にも大きな影響を与えた版本の作者でもあったのである。

このように、居初つなについても、版本だけでの考察しか行われていなかったために、それ以外の重要な仕事を見損なっていたのである。居初つなは、往来物の版本だけではなく、当時制作された普通の版本の筆耕や挿絵も担当していた。また、奈良絵本・絵巻以外の写本や、一枚物の手本もしばしば筆写しているのである。

浅井了意にしても居初つなにしても、それぞれの専門家は相応に存在していたが、残念ながら、版本のみの研究であったがために、近年判明したこのようなことは、全くわかっていなかったのである。これは、

同時代に作成された写本と版本を、両者を関わらせながらあらためて見直せば、明らかになることなのである、本研究の大きな目的は、まさに、写本と版本の同時進行的な見直しにあるのである。ちなみに、浅井了意と居初つなの二人は、全く別個の存在のようにも見えるが、井原西鶴の版本の挿絵を担当した絵師吉田半兵衛を介すると、とても近い存在であることがわかってきた。また、両者には、小袖に関する著作もあり、そこでも繋がっている。

主要な文学作品は、江戸時代前期に、版本にされている。その過程についても、近年研究がやっと進んできたところである。『太平記』と医書との関係や、和歌の版本化等についての研究は、それ自体意味があることである。しかし、これらの研究も、室町時代から江戸時代にかけての写本と版本の関係を考えなければ、意味をなさない。

さらには、この時代の本のことを考えるには、中国・朝鮮で作成された版本との関係を考えなくてはならない。『帝鑑図説』や『三綱行実図』のような明・朝鮮で刊行された本が、日本で模刻され、和刻本ができたことは知られていたが、それが和文に訓読されて出版されたり、さらには、それらの奈良絵本・絵巻が存在したことは、近年まで全く知られていなかった。この二作品の奈良絵本・絵巻は、全てが海外の機関に所蔵されており、それらの伝本の発掘・調査には、海外への出張は欠かすことはできないのである。本研究では、室町時代から江戸時代にかけて制作された、いわゆる漢籍についても対象とし、その写本と版本についての調査研究を行う予定である。

もちろん、これらの研究を進めるには、写本や版本に対する深い造詣がなければならぬ。これまでの研究でよく見られたのが、本の知識がないための、時代の同定の誤りである。例えば、同じ題名の写本と版

本が存在した場合、常識的には写本の方が古いということで、写本の作成の方が古いとしてしまっていることがとても多くあるのである。その常識化された説がいかに間違っているかは、この研究でかなり明らかになるであろう。そのためには、慶應義塾大学斯道文庫で書誌学の研鑽をした人物を中心に、国文学のあらゆる分野から協力を得て、研究を行う必要があるのである。

『源氏物語』の写本として最も有名な大島本も、書誌的な観点からその制作時期や環境がかなり見直されてきた。中世・近世を問わず、他の分野でも、原本を調査し直すことによって、これまでの常識の間違いがかなり明らかになってきたのである。それを確定していくためにも、日本の代表的な写本・版本を有する文庫である、国立公文書館内閣文庫の蔵本は、あらためて、とらえ直す必要があると考えている。本研究は、海外の機関においても、国内の機関においても、それぞれに協力者が必要である。

写本・版本の問題は、文学研究に直結し、最も基礎的な研究であることを意識し、着実、具体的に成果を出していきたいと考えている。

### 3. 研究の方法

本研究を遂行するためには、まず、室町時代から江戸時代にかけて制作された、写本・版本のとらえ直しが必要である。それらの中でも、江戸時代前期に奈良絵本・絵巻にされた作品で、なおかつ、版本に作られている作品を比較するのが最も有効である。奈良絵本・絵巻は、現在では、御伽草子だけではなく、物語文学、軍記文学、和歌文学、漢籍等、さまざまなジャンルの作品が見付かっている。それらをそれぞれの担当者が調査し、分析するのである。そのためには、具体的に奈良絵本・絵巻等の原資料を、日本国内はもちろん、

海外の機関においても調査する必要がある。それらの過程で判明した重要な作品は、研究誌等に紹介し、内外の研究者を集めたシンポジウム等でも報告することとする。

### 4. 研究成果

この方針の下に、本研究の経費の使用の中心となる、国際的な研究については、以下のように、各年度の成果があった。

2012年度は、海外での最大級の資料保存場所である、イギリスの大英図書館に合同調査に赴き、調査。研究を行った。また、全体の公開講演会兼シンポジウムとして、2013年3月に、慶應義塾大学において、写本・版本国際集會を開催した。

2013年度は、イギリスにおける調査を続行するとともに、合同シンポジウムである写本・版本国際集會をケンブリッジ大学で開催した。

2014年度は、オランダ・ライデン大学において、写本・版本の調査とともに、合同シンポジウムである写本・版本国際集會を開催した。

2015年度は、アメリカ合衆国・プリンストン大学において、写本・版本の調査とともに、合同シンポジウムである写本・版本国際集會を開催した。

2016年度は、ドイツ・ハイデルベルグ大学において、写本・版本の調査とともに、合同シンポジウムである写本・版本国際集會を開催した。

以上のように、海外において国際研究集會を開催した大学は、日本学の研究においても世界有数の大学であった。それらの地において、二日間以上の研究集會を、在地を中心とする世界有数の日本学研究者と本研究メンバーで開催できたことは、大きな成果であるといえよう。また、本研究に関係するほとんど未紹介の資料の調査も各地で調査できている。

国際研究集会の詳細や、各自の研究の成果の詳細は、とても全てを記し得ないが、奈良絵本・絵巻と版本との関係だけでも、新たな浅井了意・居初つなの資料の発見等、多くの成果があった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7件)

石川透・「奈良絵本・絵巻研究の副産物ー浅井了意と居初つなー」・『日本文学』・査読無・第66巻第5号・2017・78-79頁

石川透・「ビゲロー旧蔵『酒井童子』絵巻の意味するもの」・『文学・語学』・査読有・第218巻・2017・91-95頁

石川透・「素朴な奈良絵本・絵巻と仏教」・『藝文研究』・査読有・第109巻・2015・333-340頁

佐藤道生・「『百二十詠』と句題詩」・『藝文研究』・査読有・第109巻・2015・272-283頁

石川透・「居初つな筆雑本『徒然草』の出現」・『絵入り本研究』・査読無・第5号・2014・7-9頁

石川透・「居初つな筆『女歌仙』と『女百人一首』」・『絵入り本研究』・査読無・第4号・2013・4-6頁

石川透・「居初つな筆雑絵巻『女歌仙』の出現」・『古典資料研究』・査読無・第26号・2012・5-7頁

〔学会発表〕(計 8件)

石川透・「浅井了意の写本と版本」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2017年3月8-9日・ハイデルベルグ大学(ハイデルベルグ市、ドイツ)

屋名池誠・「岐路に立つ仮名ー仮名づかい以前の仮名表記」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2017年3月8-9日・ハイデルベルグ大学(ハイデルベルグ市、ドイツ)

神作研一・「古義堂の歌人ー恵藤一雄について」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2017年3月8-9日・ハイデルベルグ大学(ハイデルベルグ市、ドイツ)

佐々木孝浩・「平仮名古活字版の仕立てについて」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2017年3月8-9日・ハイデルベルグ大学(ハイデルベルグ市、ドイツ)

石川透・「写本と版本の関係」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2016年3月4-5日・プリンストン大学(ニュージャージー州、アメリカ合衆国)

堀川貴司・「渋江抽斎旧蔵『経国集』伝授の様相」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2016年3月4-5日・プリンストン大学

(ニュージャージー州、アメリカ合衆国)  
石川透・「居初つなの写本と版本」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2015年3月7-9日・ライデン大学(ライデン市、オランダ)  
石川透・「日本最初の絵本作家居初つな」・写本版本国際研究集会(国際学会)・2013年7月12-13日・ケンブリッジ大学(ケンブリッジ市、イギリス)

〔図書〕(計 2件)

石川透・奈良絵本・絵巻国際会議・『京都で作られた奈良絵本・絵巻 展示解説』・2014・54頁

石川透・竹林舎・『中世の物語と絵画』・2013・501頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

石川 透 (ISHIKAWA, Toru)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：30211725

##### (2) 研究分担者

屋名池 誠 (YANAIKE, Makoto)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：00182361

佐々木 孝浩 (SASAKI, Takahiro)  
慶應義塾大学・斯道文庫・教授  
研究者番号：20225874

堀川 貴司 (HORIKAWA, Takashi)  
慶應義塾大学・斯道文庫・教授  
研究者番号：20229230

小川 剛生 (OGAWA, Takeo)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：3 0 2 9 5 1 1 7

津田 眞弓 (TSUDA, Mayumi)  
慶應義塾大学・経済学部・教授  
研究者番号：4 0 3 9 0 5 8 8

佐藤 道生 (SATO, Michio)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：6 0 2 1 5 8 5 3

(3)連携研究者

小秋元 段 (KOAKIMOTO, Dan)  
法政大学・文学部・教授  
研究者番号：3 0 2 8 1 5 5 4

神作 研一 (KANSAKU, Kenichi)  
国文学研究資料館・研究部・教授  
研究者番号：3 0 2 6 7 8 9 3

柳沢 昌紀 (YANAGISAWA, Masaki)  
中京大学・文学部・教授  
研究者番号：6 0 2 6 7 8 9 6

(4)研究協力者

( )